

綾瀬市立綾北中学校

研究テーマ：持続可能な社会に向けた価値観をもった生徒の育成 ～ESD/SDGsの視点から指導の改善を図る～

1 実践の目的

学習指導要領は全体の内容にかかる前文及び総則において、「持続可能な社会の創り手」の育成を掲げている。持続可能な社会に向けた教育はESDと呼ばれる。我が国における「国連持続可能な開発のための教育の10年実施計画」によれば、「ESDで育みたい力」は次のとおりである。

ESDで育みたい力

- ・持続可能な開発に関する価値観
- ・体系的な思考力
- ・代替案の思考力
- ・データや情報の分析能力
- ・コミュニケーション能力
- ・リーダーシップの向上

特に、「持続可能な開発に関する価値観」はその具体として「人間の尊重」「多様性の尊重」「非排他性」などが挙げられている。

本校は市内の中学校で唯一国際教室が設置され、4つの小学校区から生徒が集う「多様性の空間」である。本校ではこれまでにモラルジレンマによる道徳授業の実践、学活におけるソーシャルスキルトレーニングプログラムの実践など、「多様性の尊重」を意識的に育む取り組みを重ねており、さらに歴代の校内研究では「コミュニケーション能力」に焦点を当てた研究を重ねてきた。これまでの綾北中学校で重視してきた教育活動をさらに拡充・深化させていくことを目的として、研究テーマを設定した。

2 実践の内容

(1) 校内研究の体制と研修会の実施

8名の推進委員と管理職により構成される校内研究推進委員会が中心となり、研究を推進した。全職員を4つのチームに分け、チームごとに校内研究特設授業の検討を行った。特設授業の授業者以外の教員も、1年間で1回以上「ESDで育みたい力」にかかわる授業を公開した。なお、学習指導案には「あやせ学びづくり」の取り組みとして、振り返りの方法についても記載した。

全体研修会（8月）や、特設授業（2月）には、日本ESD学会会長・宮城教育大学名誉教授の見上一幸氏、および綾瀬市教育委員会指導主事を招いて指導・助言を仰いだ。

(2) 特設授業の内容

4名の校内研究推進委員が授業を公開し、その後授業についての協議を行った。

●「綾瀬市の将来について考えよう」（2年社会 渡部 裕司教諭）

身近な地域である綾瀬市について、「綾瀬市総合計画」の概要と3つの視点（育てる・稼ぐ・支える）からなる15の戦略プロジェクトの概略について理解し、大人への聞き取り調査をもとにグループで分析を行い、パワーポイントで発表を行った。活発な意見交換を経て、綾瀬について考えを深めることができた。



←授業の様子

●「偉人を紹介しよう」（1年英語 湯本真悟教諭）

単元の目標である「尊敬する人物を紹介しよう」に向けて、人物を紹介する文を班で考えたり、クラスメイトが考えた文を読んだりすることで、人物を紹介する基本的な文章力を育むことをねらいとした授業を行った。協議では、タブレットのより良い活用方法や、意見共有の方法について議論が交わされた。

●「光の反射や屈折の不思議に迫ろう！」（1年理科 上杉 菜々美教諭）

光の反射の導入として、反射に必要な条件を、鏡を使った簡単な実験から見だし、次時に向けた学習課題を生徒自身で考える授業であった。議論の際には個人の考えを付箋に書き、それを班ごとで共有し合うことで反射に必要なものは何かを積極的に話し合っていた。協議では、「鏡という身近な教具が生徒の興味を引き出していた。」「話し合いの際の工夫が凝らされていて、活発な話し合いにつながっていた。」などの肯定的な意見が多く出されていた。

↓授業の様子



●「環境や人にやさしい食生活～環境や人にやさしいお店のお弁当を企画しよう～」（2年家庭 青山 香菜教諭）

持続可能な社会の構築という視点から、食生活においてできる工夫を考え、生活に活かせる力を育む授業を計画した。どのような食事が環境や人に影響を与えるのか考えながら、グループで協力し、「お店で販売するお弁当」を班で話し合う授業であった

が、後日の公開となった。

3 実践の成果

本研究テーマによる校内研究は3年目を迎えた。次の表は、生徒を対象として行っているアンケート調査（6件法で実施）のうち、「持続可能な社会に向けた価値観」に係る項目を中心に、3学年生徒の結果の一部を抜粋したものである。

↑生徒アンケートの主な項目の変化

質問項目	実施時期		
	令和4年度 1回目 7月	令和4年度 2回目 2月	令和5年度 1回目 2月
私は授業に意欲的に取り組んでいる。	4.66	4.70	4.72
私は授業で他の人の考えを聞いたり、意見を聞いたりする活動ができています。	4.69	4.88	4.81
自分とは違う意見から学ぶことがあると思う。	4.91	4.81	4.95
自分とは全く違う意見だからといって否定する必要はないと思う。	5.34	5.17	5.19

取り上げた各設問ともに肯定的な回答をする生徒が増えており、持続可能な社会に向けた価値観（多様性の尊重、非排他性など）が一定程度養われていることが示唆された。

4 今後の展開

本校ではこれまで各教科を中心として、ESDやSDGsの視点からの指導改善に取り組んできた。ESDを研究主題に据える学校の多くは、総合的な学習の時間を核として研究を進めている。本校においても、今後、総合的な学習の時間のあり方についての全面的なブラッシュアップを検討している。ESDの視点から指導の改善を図ることを核としつつ、総合的な学習の時間においては、各学年の発達段階を考慮した幅の広いテーマの立て方、発表の方法、さらには探求型の学習に向けた研究を模索したい。